

平成30年度 第4回 高山市総合教育会議 議事録

【日 時】 平成31年3月22日（金） 14時00分～16時00分

【場 所】 高山市役所 4階 特別会議室

【出席者】 (構成員) 高山市長 國島 芳明
教育長 中野谷 康司
教育長職務代理者 針山 順一郎
教育委員 打江 記代
教育委員 野崎 加世子
教育委員 長瀬 信
教育委員 白田 美樹

(構成員以外の出席者)

中部学院大学 新井謙司准教授

企画部長、教育委員会事務局長、市民活動部長、市民保健部長、都市政策部長、企画課長、教育総務課長、学校教育課長、文化財課長、学校給食センター所長、子育て支援課長、協働推進課長、スポーツ推進課長、商工課担当監、企画課係長、教育総務課係長、学校教育課係長、生涯学習課係長、大学連携センター副センター長、企画課職員

【会議内容 (次第)】

- ・市長あいさつ
- ・教育長あいさつ
- ・議題
 - (1) 大学と連携した小学校英語教育の推進について
小学校英語教育総合カリキュラムマネージャー
中部学院大学 新井謙司准教授
「国際観光都市『高山市』の将来を支える子どもの英語力の育成と
自立的コミュニケーションの姿を目指して」 資料①
 - (2) 学校運営協議会設置について
学校運営協議会設置について 資料②
 - (3) 教育大綱の推進に向けた平成31年度の主な取組みについて
教育大綱の推進に向けた平成31年度の主な取組み 資料③
- ・閉会

【議事要旨】

市 長 (1) 大学と連携した小学校英語教育の推進について、本日は、昨年度から配置させていただいている、小学校英語教育総合カリキュラムマネージャーである、中部学院大学の 新井謙司准教授に、小学校での外国語活動や、英語科授業の支援や成果についてお話しいただきます。それではよろしくお願ひします。

新井准教授 (資料①により説明)

市長 ありがとうございます。教育委員会としては何かご意見はありますか。

学校教育課職員 すべてお話しいただいた通りで、カリキュラムマネージャーの2人のおかげで高山市の英語教育は充実していると感じています。

白田委員 久々野小学校の授業を見させていただきましたが、子どもたちが生き生きと英語を話していて、スピード感があり、とても楽しそうに取り組んでいると感じました。

長瀬委員 今までにも、総合教育会議で機会あるごとに英語教育の充実という話をさせていただきました。国際観光都市ということや、次期学習指導要領に教科として位置づけられるということもありましたが、高山市の教育の柱の一つに外国語教育を置くと、非常に特色ある教育が展開できるのではという思いで発言させていただきました。外国語教育を進めるにあたり、小学校においては英語が専門でない先生方が授業をする場合、大変不安に思っているだろうし、うまくいくだろうかと思っておりましたが、久々野小学校、本郷小学校での授業を見させていただいたところ、英語が専門外の先生方が自信をもって指導していただいている、大変心強く思いました。そのことが結果として、子どもたちが英語に非常になじんで取り組んでいるという成果となっていると思っています。高山市の先生方は前向きに英語教育に取り組んでみえます。予算に関わる発言がありましたが、英語教育が進んでいるといっても高い次元の目標のためには、まだまだやらなければならないと思うので、さらに市の外国語教育が推進されるような環境整備にご理解いただけるとありがたいです。

野崎委員 小学校では、子どもたちが生き生きとして発音がよく、「耳で聴く」とはこういうことかと感じました。また、ALTと担任の連携がうまくいっていることがよく分かりました。ALTの先生方は、出身も様々だと思いますが、質の標準化のためにはどのようなことをされていますか。

新井准教授 今年度は、ALTの会議時間を借りて、カリキュラムマネージャーの2人で少しずつ研修を積み重ねてきました。来年度は、ALTのみを集めてしっかりと研修を行ない、学校にも積極的に支援に入らせていただき、ALTと担任のコラボレーションの仕方や、役割分担、外国語活動の意味を踏まえてALTが子どもたちとどうやってやり取りをしていくか、現場実習を含めて、現在検討しているところです。

打江委員 先生も楽しく学んでいるし、子どもたちも表情が良く楽しそうに学んでいることもよかったです。外国の人たちを多く見かけることを子どもたちも感じていると思いますが、外国語は、単なるツールとしてではなく、文化や伝統、他国を認め合うことも教えてほしい。ALTも活躍していて、モチベーションが上がっているのではないかと感じました。実際の外国人と話そうとするのが難しいですが、子どもたちにも、チャレンジする力がついてくると思います。

関連で、電子黒板は学校では足りていますか。

新井准教授 小規模校では、電子黒板を利用した授業時間の調整に支障はないと聞いていますが、北小学校や山王小学校などの大規模校では難しいので、規模に応じた配置をしてほしいという意見は聞いています。

針山委員 中部学院大学からかなり支援いただいているありがたいと思っています。小さいうちから生きた英語に接することが非常に大事だと思っており、感謝しています。

市長 大学連携センターに対する期待があれば、お聞かせいただきたいと思います。

新井准教授 将来教員を志望する学生が、高山市に来て、学校現場で子どもたちや、先生方も交えて一緒に勉強しあえるような機会を得られたらいいと思っています。移動経費などもかかりますので、そういったことも含め、センターとの連携で実現したら大変面白いと考えています。

また、ALTが開催しているイングリッシュシャワーに学生を参加させたり、地域や子どもたちの関わりの中で学生が学び、それが子どもたちに還元されれば、大変ありがたいと思っていますので、今後話しさせていただきたいと思っています。

市長 それでは、ご意見は尽きたようですので、(1)については終了します。
新井准教授は、ご都合によりここで退席されます。どうもありがとうございました。続きまして(2)学校運営協議会設置について、事務局より説明願います。

学校教育課長 (資料②により説明)

針山委員 資料2ページにありますように、地域と学校をつなぐコーディネーター的な役割の人が必要ということが大きなポイントだと感じています。年度替わりで役員が変わるなかで、コーディネーターにはリーダーシップ的な認識を持ってもらう必要があります。役員を委嘱する際には、学校のことを真剣に考えてもらえるようにし、コーディネーターは学校とのコミュニケーションがしっかりとれるようにしなければなりません。今までの学校運営の流れではスムーズにいけるのか、絵に描いた餅となってしまう心配しているところです。

また、学校運営協議会とは別のところで、いじめや児童生徒の重大事態が起こった場合、学校と保護者との問題に関わってもらえるよう学校から要請できる、スクールロイヤー制度についても考えていく必要があると思うので、意見として述べさせていただきます。

学校教育課長 社会教育法では地域学校協働推進活動推進について、法的整備が整いつつあります。学校側と地域とのパイプ役になる協働活動推進員は、一朝一夕に決められるものではないと思っています。学校運営協議会の発足にあたっては推進員の人材発掘や養成も必要になってきますが、学校では地域に志のある人がみえるのかどうかわかりませんし、学校職員が地域の方を養成するといったことも難しいので、まちづくり協議会に地域の窓口になっていただき、地域の人材を紹介いただいたり、人材の育成にもご協力いただきたいと思います。

スクールロイヤーについては、将来的には検討していく必要があると思っています。まずは学校運営協議会の設置を推進し、解決が難しい時は教育委員会が入って必要に応じ警察や市の顧問弁護士のお力を借りながら、全体としてバックアップしていきたいと考えています。

市長　　まずは手引き等の作成が必要となってくると思いますが、そのためには広く地域の方の参画が必要なので、協働推進課と連携して進めてもらいたいと思います。この件は継続的に協議していくべき内容だと思いますので、よろしくお願い致します。

教育長　　まちづくり協議会への説明を行った協働推進課の感想はどうか。

協働推進課長　　地域でも、地域の子どもを育てていく思いで活動しており、学校と地域の思いの一致するところで進めていければいいと思っています。学校とのパイプがうまくいっているところと、まだ体制が整っていないところがありますが、まちづくり協議会は、コーディネーター役の部分を担当し、地域の課題を解決していく組織と考えており、今までも研修等を行ってきています。今後は、学校教育課と協議しながら、各地区の実情に応じてそれぞれのまちづくり協議会がどう関わっていくかなど、一緒になって考え、来年度スタートできるように支援していきたいと考えています。

市長　　次に、(3)教育大綱の推進に向けた平成31年度の主な取組みについて、事務局より説明願います。

企画課長　　(資料③により説明)

長瀬委員　　子どもにやさしいまちづくり推進会議の資料では、子どもたちが高山に将来すみたいと感じている割合が8割くらいで、それに対して、親が子どもに将来高山で生活させることを考えている割合は2割だったと思います。子どもたちと親の世代の感覚の相違の解消といったところに、一つの目指す方向性があると感じました。

市では、子どもたちへの郷土教育によって地域の魅力を伝える取り組みを行っており、子どもたちは将来高山で生活しようと夢を描いているけれども、実際生活しようと思ったとき、雇用も含め十分かという親の立場からしたら不十分と感じ、積極的に将来戻ってきてと言う親が少ないのだと思います。若者が働ける環境を作っていく必要があると感じるので、そこにスポットを当てて事業を展開していただきたいと思います。

企画課長　　若者が働ける場所、雇用の確保や、魅力創出のために賃金を上げるなどといったことが課題と捉えており、これらのことを踏まえて施策展開を図っていききたいと考えています。

打江委員　　先日、開催された就職相談会では、時間を延長して開催し、企業側は官公庁含め70から80社が出展していたそうですが、学生がまばらで20人くらいしか来ず、非常に少なかったと聞きました。企業側も危機感を持っているので、高山市でも学生の帰省する時期に合わせて開催するなど、市内にどんな企

業があるのかも含めて、もっとアピールしてほしいと思います。

また、市では障がいのある人に切れ目のない支援をしていただいています
が、特別支援学校の卒業生にとっては、働き続けるためには、通勤がネックに
なっていると聞きました。免許取得が難しかったり、通勤が困難ということが
あるようなので、通勤手段について考えていただければと思います。

商工課担当監 企業ガイダンスを実施しましたが、学生の参加は50名程度で昨年度よりも
減少しています。今回試験的に時間を延長し、それなりの効果はあったと考
えていますが、ご案内の時期のことも含め、学生にメリットのある方法を検討し
ていきたいと思っています。

子育て支援課長 障がいのあるお子さんについて、高山では企業の方に積極的な雇用にご協力
いただいています。特別支援学校を卒業して就職するときには、特性の強い方
では特性を変えてまで働くことは難しいため、その子の特性に職場を合わせる
のが大事な要件と考えています。その中で、通勤についてもネックとお聞きし
ており、このことについては、特別支援学校との連携も進めてきているので、
障がいのあるお子さんが安心して長く勤めていただけるような取り組みを、関
係者と相談しながら取り組んでまいりたいと思っています。

野崎委員 No10のゲートキーパー養成講座について、大事なところに目をつけてい
ただきありがたいと思っています。講座について詳しく、対象や教育委員会と
の連携はどのようにされるのか教えてください。

市民保健部長 自殺対策計画を策定しましたので、これに基づいて来年度からゲートキー
パー養成講座を10回くらい開催したいと考えています。講師は精神科のドク
ターに依頼する予定で、対象者は市民はもちろん、民生児童委員、ケアマネ、介
護現場で働く方、教職員、保育士、児童生徒と関わる人、市民が話しやすい職
業ということで、理容業者、薬剤師などを対象とした講座を検討しています。
今から組み立て、早目にお知らせしていきたいと思っています。

野崎委員 継続して、それぞれの対象者にあった内容の講座を長いスパンで考えてい
てほしいと思います。

市民保健部長 対象者を限定したやり方もあると思いますし、継続的にやっていきたいと思
っています。

針山委員 教育委員会では、不登校の児童の居場所づくりを考えていますが、施設整備
は困難なので、来年度に向け、「よって館」のような空きスペースを利用して、
誰かに常駐してもらい、不登校の子が来られるようなところを作れないでし
ょうか。

協働推進課長 不登校に限らず、一部のまちづくり協議会では、地域の居場所づくりの取
組みを行っているところがあります。こういった取り組みを、場所を借りて行
うこともできるように、まちづくり協議会に対し、モデル的事業として追加的
支援を行うことができるようにしました。今後も、関係課とも一緒に地域にお
ける居場所づくりについて支援していきたいと思っています。

白田委員 保育士研修の充実について、療育の支援を受けるお子さんが増えており、療育に関わる資質向上をしていただければ子どもたちの支援が充実していくので大変ありがたいと思います。

子育て支援課長 週1回の療育でなく、毎日通う保育園や学校で、担任がしっかりした支援をできることを目的とするものですので、学校とも協力し、一緒に取り組んでいきたいと思っています。これまでCLMに取り組んできましたが、私立の保育園でも効果があるということで、取り組みが始まっており、県事業で実施していたものを、市の取り組みとして進めていくものです。

市長 先ほどの新井准教授の話の中で、英検受験に対する助成金が残りの一年ということでしたが、どんな見通しになりますか。市のほうでもある程度手当てしてかなければならないのか、いかがですか。

教育長 見通しについては、これからです。

市長 ALTの充足度はどうですか。

教育長 ALTについては、現在13名ですが、16名体制が取ればベストですので、3人足りないということになります。

市長 わかりました。教員の海外研修について、教育委員会の人員体制の中で中長期の研修は可能ですか。

教育長 教員は県職員なので、県の人材育成の枠組のなかで市内の教員もそういう研修を受けたりということはありません。新井准教授の話は、高山市とデンバー市との交流の中でデンバーと市の教員を交換して派遣することなので、県費の教員をそういった形で派遣するのは難しい点があります。

市長 県のほうでは不可能なのですか。

教育長 市の交流枠では難しい点があります。

市長 現在、高山日赤や久美愛病院で、コロラド大学の病院に研修医を派遣する制度を行っており、そのことが、学生が研修先を選択する動機づけになっているそうなので、デンバーとの実利的な交流のきっかけとして、検討材料になると思います。

電子黒板については、校長会からご要望をいただいております。電子黒板をどのように使用したらより効果的かを実証していただいている段階で、その結果を踏まえて導入を検討するスタンスですのでご理解いただきたいと思います。ICT環境整備については、取り入れていただかなければならないと思っていますので、企画課においても、八次総の見直しの中でとらえていただければと思います。

全体を通じて特にございませんか（特になし）。

それでは、進行を事務局に戻します。

企画部長

活発なご議論をいただきありがとうございました。

最後に、高山市第八次総合計画についてお話させていただきます。

現在、高山市第八次総合計画について、来年度の見直しに向け、皆さんのご意見をお聞きしているところです。

これまでは、総合計画は、環境、観光といった分野ごとに作っておりましたが、今回も議論がありましたように、若者を惹きつけるにはどうすべきか、または地域経済を循環させていくにはどうしていくかなど、視点を変えた見直しをしようとしており、これを達成するにはこれまで以上に市役所内での各部局の連携が必要となってきます。その中で教育大綱の推進も重要な役割を果たすと考えておりますので、見直しにあたりましては、総合教育会議で皆さんのご意見を賜りたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

以上をもちまして、平成30年度第4回高山市総合教育会議を終了します。